

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年9月21日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 伝説の首長の遺骨返還を求めて

歴史にほんろうされたアイヌ一族の物語

23日(日)



北海道大学に研究目的で収集されたアイヌの遺骨約1000体が保管されています。今夏、この中の1体が遺族に返還されることが決まりました。返還されるのは樺太アイヌの首長バフンケ(日本名・木村愛吉)のもの。



日露両国のはざままで生きてきたバフンケの遺骨は、なぜ持ち出されたのか。近現代史のはざまではんろうされた一族の歴史と遺骨をめぐる物語をひもときます。

筆者はさいたま支局の三股智子記者です。

きらり 「宙先(そらさき)」案内人 高橋真理子さん

サラダぼうる面 24日(月)

一般社団法人「星つむぎの村」代表理事の高橋真理子さんは、小児病棟や東日本大震災の被災地などに「星空」を届けています。エアドームの中に空気を入れ、丸いプラネタリウムを作る仕掛けです。

写真家の星野道夫さんに憧れてオーロラ研究者になろうと決めた高橋さんは「星には人を励ましたり癒やしたりする力がある」。星と子どもをつなぐ生き方に迫りました。

## 「平成という時代」第2部・この場所

1・3面など 25日(火)

来春に迫った平成の終わりに向け、この30年を振り返るとともにより良い明日を考えていく連載「平成という時代」第2部をスタートします。

平成を考える上で重要なキーワードの舞台となった全国のさまざまな「場所」から、そこで起きた出来事、そこに集った人々の姿を通じて、平成の30年が今に伝えるメッセージを探ります。

初回は「アキバ」です。

## ゆがんだ「拝外主義」

言葉も知らないイランへ送還も 日本で育った16歳

夕刊特集ワイド 25日(火)

日本で生まれ育った「外国人」の少年が、不法滞在を理由に国外退去をさせられかねない事態となっています。

少年は、出稼ぎで来日したイラン人の父(50)と日系ボリビア人の母(49)の長男として神奈川県で生まれたガセミ・ファラハッドさん(16)。

国を相手取った裁判で「僕が日本でしか暮らせない理由」を訴えたいと求めましたが、国側は、強制退去の要件とは関係がないとして、ファラハッドさんが法廷で主張することを認めようとしません。

ファラハッドさんは一体、どうすればいいのでしょうか。

## 読み解きワード「フレイル」

医療・福祉面 26日(水)

ニュースのことばを図解つきで分かりやすく解説する「読み解きワード」。今回は、年を取って体を動かす機会や人付き合いの減少で足腰が弱くなり、体が衰えた状態を指す「フレイル」を取り上げます。政府は医療・介護費の抑制や労働力不足の解決も狙い、元気な高齢者を増やすためのフレイル対策を進めています。

フレイルに陥るメカニズムや、自宅で簡単にできる兆候のチェック方法もお伝えします。

## 高齢者の健康共同体

くらしナビ 26日(水)

CCRC (Continuing Care Retirement Community) をご存じでしょうか。「継続的ケア付きの高齢者たちの共同体」を意味する米国生まれの言葉です。

医療や介護のケアを受けられる場所へ元気なうちに移り住んで「第二の人生」を楽しむ点が、有料老人ホームなどとは異なります。

国内先進地の茨城県笠間市を訪ねました。

## 日欧共同で水星探査機 来月打ち上げ

科学面 27日(木)

太陽に最も近い惑星「水星」に向け、日本の宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と欧州宇宙機関 (ESA) が共同で10月19日に探査機を打ち上げます。水星の存在は紀元前から知られていましたが、これまでに探査機が送られたのは2回しかなく、「なぜ強い磁気を持つのか」など謎の多い惑星です。

今回は、ESAが主に水星表面や内部構造を調べる探査機「MPO」、JAXAが磁気や大気などを観測する探査機「MMO」の計2機を水星周回軌道に投入し、謎の解明に挑みます。

## 論点 外国人就労の拡大

オピニオン面 28日(金)

政府は来年4月から、外国人の就労を目的とした在留資格を新設し、2025年までに新たに50万人以上を受け入れて、深刻化する労働力不足に対応する考えです。外国人労働者は5年連続で増加しており、割合は10年の1%から17年には2%まで増えました。

「50人に1人」と身近になり始めた外国人と共に働き、生活するための準備と心構えについて考えました。